

木育 かわら版

MOKUIKU

知ろう、使おう、広げよう、みやざきの木



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

Vol.
18

Contents

Page1	「オンライン視察研修会」
Page2	「オンライン視察研修会」
Page3	宮崎工業高校インテリア科 木育授業
Page4	木育活動を行っている園、学校の紹介

みやざき木育プログラム研修会

オンライン視察研修会

視察園：社会福祉法人 博愛福祉会 下牧こども園（岐阜県美濃市）
愛知県大口町立北保育園（愛知県大口町）

日 時：令和 4 年 1 月 20 日(木) 10:00 ～ 11:30、14:00 ～ 15:30

案内人：松井勲尚氏、吉田理恵氏

参加者：四季の森こども園（日南市）、めぐみ保育園（宮崎市）

みやざき木育プログラム・・・

宮崎県では、宮崎固有の文化や豊かな森林・木材資源をベースとした宮崎らしい木育プログラムの開発に取り組んでいます。



社会福祉法人 博愛福祉会 下牧こども園
〒501-3782
岐阜県美濃市長瀬 545 番地

木育の先進県である岐阜県的美濃市にある下牧こども園と木育に新たに SDGs の理念を取り入れながら保育を行っている、愛知県の大口町立北保育園へ視察を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置の実施区域に指定されたことから、リモート視察という形式で実施しました。

現在、めぐみ保育園（宮崎市）と四季の森こども園（日南市）で取り組んでいる年中児プログラム「マイ箸づくり」を中心に、それぞれの園での木育の取組みを聞かせてもらい、その後は質疑応答を行いました。



下牧こども園
野倉園長



下牧こども園
野村副園長

➤ 下牧こども園での木育活動について

下牧こども園は木育のモデル園として 10 年以上継続して木育に取り組まれています。スプーンに使う材料は年少児には木材の中でも比較的柔らかい素材であるホオノキを使い、年長児になると少し堅い材を使うそうですが、美濃市のシンボルツリーであるカエデか、ヤマザクラかのどちらかを使って作っていたとのこと。お箸作りは、一咫半の長さを決める工程から副園長が指導されています。材料も 10 年やっていくうちに様々な状況を考慮検討して、今はイチイを使うようになったそうです。箸袋を園で作し、これに箸を包み、持ち帰ってもらい毎日使っています。年長児は箱椅子を卒園記念に作って卒園しますが、岐阜県のスギを使ったキットを購入されています。ノコギリやゲンノウを経験し、出来上がった自分の手形を押し、日常で使用し、最後にもう一度塗装をかけお手入れをして卒園記念品として卒園児に渡す取り組みを続けていらっしゃいます。



松井先生



四季の森こども園
谷口先生、徳尾先生



めぐみ保育園
高橋先生、木脇先生

➤ 箸づくりについて

箸作りは年中児が行いますが、紙やすりを持つのは初めてなので、三つ折りにすることから始めているそうです。最初は粘土板に紙やすりを貼って削りますが、子どもにとって、平にまっすぐ削るというのは難しい作業なので、「真四角の角を取るよ」など声掛けをして、みんなで一緒に削っています。園児が飽きてくると、紙やすりを三つ折りにしてまんべんなく削っています。園児の自主性に任せていた時期もありますが、積極的に取り組める子とそうではない子の差が大きくなることが気になり始めたそうです。しかし、削る楽しさをみんなに味わってもらうことを大切にしたいと考え、時間を決めて、担任と一緒にみんなで削って箸作りを進めていくことにされたそうです。なかなか削る作業に向かえない園児には、職員が少しお手伝いをして、「角がチクチクから丸くなったのが分かる？」と、手で触らせませす。少し手伝いながら、あたかも自分が削ったような感覚を味合わせ園児の心をくすぐりながら、「そんなことはやりたくない」、という気分にならないように、職員は心がけています。お話しして下さった副園長先生は「最初は私が全部指導していましたが、3 年目以降から職員もスキルが身に付き、私はアドバイスするぐらいです。」と仰っていて、日常の活動として定着されていることが伺えました。

吉田先生のお子さん（小5、小2）が通っていた園でもあり、吉田先生は、今でもその時に作ったスプーンを大事に使い続けていると話してくださいました。2 本あるスプーンも、子どもが自分の削り具合を覚えているので、スプーンの削り具合を見て自分のスプーンが分かるそうです。普段の生活の中で子どもたちからスプーン作りの思い出話が出てきたことで、日常でやり続けたことこそ、子どもたちの記憶に強く残って繋がっていることを改めて感じたと話されました。



吉田先生



左…卒園記念の箱椅子に座る園児。内側に手形を押しています。

右…箱椅子作りに余裕が出てきた後は、箱椅子を発展させた棚を作っています。

オンライン視察研修会

1 ページに引き続き、午後からの愛知県大口町公立保育園のオンライン視察研修会の報告です。

➤ 公立保育園 3 園の紹介



大口町福祉こども課
尾関保育長

大口町は木の葉のような形をしており、北部と南部で環境が違うそうです。南保育園は田園地帯が広がり自然豊かな中に保育園があり、西保育園は、真ん中に位置し、新しい家が建ち並ぶ地域にあり、北保育園は、昔ながらの伝統芸能も残っている反面、新しい住宅もたくさんあり、新しい方たちもおみえになるそうです。

大口町は平成 27 年（2015 年）に北保育園新園舎建設をきっかけに、松井先生にご指導をお願いし、木育活動をスタートし 7 年目の実践をされています。

また、本年度ははじめて SDG s の 17 目標の中から各園で絞り込みを行い、実践研修に取り組まれたそうです。



大口北保育園
〒480-0142
愛知県丹羽郡大口町
中小口二丁目 619 番地



大口西保育園
〒480-0146
愛知県丹羽郡大口町
余野 5 丁目 196



大口南保育園
〒480-0135
愛知県丹羽郡大口町
御供所 3 丁目 264

➤ 北保育園 SDG s 実践研究の取組を紹介（北保育園園長補佐：松島先生のお話）



北保育園 園長補佐
松島先生

北保育園では、SDG s の 17 の目標のうち、12 番の「つくる責任 つかう責任」15 番の「陸の豊かさを守ろう」に取組んでいます。園は木造の新園舎です。木の命を頂いて造られた園舎を大切に使う、そして、園舎を大切に使うということを園の目標にしました。「傷んだところは直して使う、という思いから、園舎のメンテナンスをしていくことにしました。「メンテナンス」という言葉は園児には伝わりにくいのでは、という松井先生からのアドバイスで、職員で考え「ぴかぴか大作戦、として取組を始めました。



⇒



⇒



⇒



「回廊外階段をきれいにする」という具体的な取り組みに絞り込み、園長先生と保育士がブラシで擦っていたら、園児が興味を示し、「僕たちもやってみよう！」と靴洗いのブラシで磨き始めました。きれいになると、園児も嬉しく、どんどん興味を示し、ブラシが人数分なかったので、「かして！」「かわって！」と言いながら、擦りました。きれいだった水が真っ黒になり、目に見えて分かるので、やる気も出ていました。その後は、紙やすりで磨き、亜麻仁油で塗装を行いました。園児も「きれいだね！」「ツルツルだね！」と喜んでいました。

➤ 大口町立保育園の箸作り

（チーム木育リーダー：永井先生のお話）



西保育園 永井先生

大口町は平成 27 年に木育活動をスタートと同時に年中児の「マイ箸作り」プログラムとして開始しました。当時の年中児担任と園長補佐が木育のプロジェクトを組み、松井先生に箸づくり研修をしていただき進めました。

木材は、シラカシを選択し、9月のプログラム

初日は、保護者参観日とし、園児の手の大きさの一咫半（ひとあははん）を測り、保護者と園児と一緒にノコギリで箸の長さを切り、中心線を引く作業を助け合いながら行ってもらいました。その後は、日常保育の中で担任保育士と園児で紙やすりの成形作業を行い、最終日に、また保護者に来てもらい、仕上げ磨きと塗装を行いました。12月に全てを仕上げ、年明けの1月から3月に箸づくりを練習し、年長児に進級した後の1年間、マイ箸を使う、という流れでプログラムを実施しました。

2年目はシラカシが堅く時間がかかったこと、運動会などの行事との兼ね合いで箸作りに向かうことが困難だったことを踏まえ、もう少し柔らかい木材のヤマザクラに変更しました。しかし、ヤマザクラだと本当にすぐ出来てしまい、私たちが大切にしたい“根気を育む”“姿勢保持で体幹をつくる”などの目的が達成できませんでした。それら反省を踏まえ、3年目は木材を時間のかかるシラカシに戻しました。同時に、保護者にも紙やすりを体験してもらおうということで、プログラムの内容を見直し「親子マイ箸作り」となりました。3年目～5年目はこの内容で進めました。5年間箸作りを行っていると、園の習慣にはなりましたが、慣れた職員に箸づくりを任せる結果になってしまったり、年中児担任が負担に感じる、という言葉が出始めました。そこで6年目は、園長補佐や主査を中心に「チーム木育」という新たなプロジェクトを結成し、新規職員に箸作りの講座を行い、先輩職員が後輩職員を教えるという形に捉え直し、大口町立の保育園全園で進めるよう意識の転換を行ってきました。

● オンライン視察に参加した保育士の感想 ●

- ・『「イベント」から「日常に」木育を』という実践を見させていただきました。気負いなく木育に関わられている姿は、年数を重ねられた結果で理想の姿だと思いました。
- ・自分たちが日常で使っているものをメンテナンスすることは子どもたちの心の育ちにも繋がり、物を大事にすることに繋がっていく大切なことだと感じました。
- ・木育（お箸づくり）を通して私たちが子ども達に何を伝えたいか、感じて欲しいか、木育の果てにどのような人に育てて欲しいかというビジョンを明確にしながら1年、1年積み重ねていけたらいいなと思いました。
- ・SDG s は、意外と身近にあると感じたのでこれから先、SDGs と木育、日常生活のつながりをより多く見つけていきたいとも思いました。
- ・「子どもを真ん中においてまちづくりをしよう」いい響きですね。少子化の時代、本当にそう思います。

松井先生より

箸を作るという教材は変わらないが、園が大切してきた思いにより、研修で響いたことが違う。木でつくることを通して、身に付けたい、学ばせたい、成長させたい思いは何なのか。園の理念や目標にあわせてプログラムを組み立てることができるのが木育の魅力です。

吉田先生より

環境教育系は人間が持っている「本来の命の輝き」という美しさを引き出す一方で、木のものの作りは、日本人が継承していく伝統・文化といった、日本人としての感覚の美しさを取り戻しているように感じられて、どちらも人間にとって重要なところであると感じました。

高校生を対象とした木育授業の実施

宮崎工業高校インテリア科木育授業

日 時：令和3年12月14日(火) 13:25～15:15

場 所：宮崎工業高校

ゲスト：都城木材株式会社 取締役 五十嵐 友梨子氏

宮崎県木材利用技術センター 企画管理課長 兵藤 和弘氏

ランバー宮崎協同組合 生産事業部総括次長 森実 裕美氏

ランバー宮崎協同組合 通訳 金 恵栄（キム ヘオン）氏



11月に実施した見学ツアー先の企業の方を招き、学びの発表と意見交換会を実施しました。各企業で学んだことや感想を生徒が発表しました。生徒の感想を一部抜粋、編集してご紹介します。

● ランバー宮崎協同組合 ●

- ・木材の加工は切るだけだと思っていたが、葉を塗ったり、機械で加工したり、などいろいろなものがあるな、と思った。
- ・普段実習で使用している木材は、いろいろな工程を経て私たちのもとに来ていることを知り、ありがたいと思った。
- ・木材を使用していくことは、これからの未来で大切になってくることが解った。
- ・モックアップ体験で、どういう風に家が建てられているのかを知ることができてとても良かった。

● 宮崎県木材利用技術センターで学んだことや感想 ●

- ・木材を利用するまでにたくさんの人々が長い時間をかけて工夫していることに驚き、自分の知らないところで人との繋がりがあり、私たちの生活に活かされているのが凄いな、と思った。
- ・いろいろな実験のおかげで私たちは安全に暮らすことができていると考え、とてもありがたいなと思った。
- ・実際に使われている構造や現在実験中の木の性質のことを知ることができて、とても貴重な経験になった。

● 都城木材株式会社で学んだことや感想 ●

- ・従業員の方々は、自然を大切にしている人が多いと感じた。自分も自然を大切にしようと思った。
- ・木材がどのような過程で工場に届き、たくさんの工程を経て私たちの住む家などの材木になるのか、私たちの身近なことでも知らないことがたくさんあった。私たちは木材に関わる学科なので、もっといろいろな木の特性を学び身につけていきたい。
- ・製材などの大きな機械を扱っている皆さんを見て、とても格好いいな、と思った。
- ・さまざまな人の支えの中で生きていることを実感した。木を利用してモノを作る学科なので、木を無駄にせず上手に利用できるかを学ぶことができて良かった。学んだことを実習でも活かしていきたい。



- ・木を伐採することは地球温暖化のリスクが高まると思っていたが、伐って、使って、植えることを繰り返すことが環境に配慮した取組だと知った。

➤ 生徒の感想を聞き、参加していた企業の方々が感想を述べました。

「見学ツアーの時も質問されていたが、更に勉強したことがよく分かった。」

「いろんな人が関わっていることを感じてもらえたことが嬉しい。」

「木に関わる仕事が宮崎県にもあるということを選択肢のひとつに入れてもらえたら良いな、と思う。」

「皆さんのパワーがすごく、今日の発表を聞き、みんなで力を合わせて私たちが伝えていなかったことも調べて発表してもらったと感じた。」

「今は、吸収する時期だと思うので、木にかかわらず、いろんなことを吸収して今後活かしてもらえれば、と思う。」

「見学だけではなく、見学後も勉強されたんだと思い感心した。皆さんの発表を聞いて、他の施設や企業のことも知れるくらい分かりやすい発表だった。」

「私の出身地の韓国は木が多くなって、一戸建てではなくマンションが多い。宮崎は身近な木を使って家を建てられて、そこに住める。木とすごく近い環境にいる皆さんがうらやましいな、と思った。」

「皆さんがこのような発表をしてくれて、ありがたく思う。就職後にも木材の良さを広めていってもらいたい。」

「今日のために作った資料を、いろんなところで発表してほしい。」

「見学ツアーの時にもしっかりメモを取り、質問されていたのがとても印象的だった。木の良さについては、皆さんは詳しくなったので、それを活かして将来の職業選択のひとつにしてもらいたい。」



最後は、質疑応答が行われ、見学ツアーの時には聞けなかったことなどが質問されました。企業の方々から丁寧な答えをもらい、今年度の木育授業を終えました。



都城木材株式会社
取締役
五十嵐 友梨子氏



ランバー宮崎協同組合
生産事業部総括次長
森実 裕美氏



ランバー宮崎協同組合
通訳 金 恵栄氏



宮崎県木材利用技術
センター 企画管理課長
兵藤 和弘氏



公益社団法人宮崎県
森林業協会
専務理事
中沖 誠氏

木育活動に取り組んでいる園、学校の活動をご紹介します

日南市

四季の森こども園「公開保育 木育ひろば」

日 時：令和4年1月15日(土) 10:00～12:00

参加者：年長児とその保護者

こちらでは、近隣の学校関係者、教育・保育施設関係者の方々を招待した、公開保育が行われました。当初、年少児、年中児、年長児クラスでの異年齢による木育ひろばが予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、対象を年長児に絞り実施されました。木育ひろばと題し、園内で「箸置き」「箸」が、園庭で「ネームプレート」「プランター」作りの、合計4つのコーナーが設けられました。各コーナーでは、作る前に、担当保育教諭が「箸置き」の紙芝居や、「箸」についてのお話、道具の使い方などの説明が行われ、親子で熱心にお話を聞いていました。お箸は何から出来ているという質問には、子どもから「オビスギ！」という声が聞かれました。また、プランター作りコーナーでは、木材を匂いながら、「ベランダと同じ匂いがする」という声や、保護者の「出来上がったらお花を植えようね」という声など、親子で木にふれあい、モノづくりを楽しむ様子が伺えました。保護者の道具の使い方に関心する子どもや、真似する子どもの様子も見られ、親子保育参加の意義も感じられる公開保育となりました。



モノづくりの前のお話



ネームプレートづくり



箸づくり



プランターづくり



箸置きづくり



プランターづくり

小林市

須木小学校・須木中学校

日 時：令和4年2月21日(月) 参加者：

小学校 10:20～12:00 小学校5年生、6年生 14名
中学校 14:20～16:00 中学校1年生、2年生 6名

林業が盛んな小林市において、小林市林業研究グループが主催となり、宮崎県環境森林税を利用した環境教育として、小学校と中学校で、卒業式の時に胸につけるかんなくずを材料としたコサージュ作りが行われました。小学生は自分用として、5年生は6年生になったら、6年生は中学生になったら頑張りたいことなどを、中学生は、3年生へのサプライズプレゼントとしてお祝いの言葉を、土台となる紙に書き、心を込めて制作しました。



須木小学校5年生、6年生の皆さん



小学校と中学校、それぞれで、まず、木についてのクイズで木に興味を持ってもらい、山の働きがSDGsとも結びついていることや、宮崎県森林環境税がどのように使われているかのお話がありました。

須木中学校1年生、2年生の皆さん



先輩に贈るコサージュができました！

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会 事務局

宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室

〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F TEL: 0985 (27) 7682 / FAX: 0985 (25) 2398

※木育かわら版の発行には「宮崎県森林環境税」が活用されています。



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ